

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1292800057		
法人名	医療法人 美篤会		
事業所名	グループホーム 花水神 月の海		
所在地	千葉県鴨川市東江見 395-2		
自己評価作成日	平成22年3月16日	評価結果市町村受理日	平成22年5月24日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://kaigo.chibakenshakyo.com/kaigosip/Top.do">http://kaigo.chibakenshakyo.com/kaigosip/Top.do</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 日本高齢者介護協会		
所在地	東京都港区台場1-5-6-1307		
訪問調査日	平成22年4月28日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者の皆さんが、日中をどの様に過ごしたいのか？何をしたいのか？を常に課題としています。月の海は二階にあり、眼下には海、あふれるばかりの採光に恵まれたリビングで、殆ど時間を9名の利用者さんとスタッフが「共に過ごし、共に生きる」を心に留め、生活を共にしています。強要をしているわけではありませんが、なぜか日中、全員がリビングに集まり、賑やかです。それぞれが好きな様に過ごす時間もあり、自分の役割だとのことでモップ掛け、掃除機と忙しい利用者さんも。個別ケアだと自信をもって言える日までほど遠い事ですが、個人の尊重を核として日々の生活のなかで自分を取り戻して頂けるよう、生活リハビリしながら利用者さんとスタッフ、共に過ごし、共に生きています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

1. 「地域とのふれあいを大切にして入居者の安心安全を第一に考え心から家族と思えるサービスに専念する」というホーム独自の理念の下で、海鮮祭りなどの地域行事に参加するだけでなく、同一法人運営の地域内の他のホームと合同で「納涼祭」を敷地内で開催し、運営推進会議メンバーなど地域の人達と交流を積極的に図っています。  
2. 寝たきりだった数人の利用者に対し、入居後歩行リハビリを始めとするADL改善のための自立支援を日々積み重ねることにより、徐々に車いすを使用しなくなるなど要介護度の改善を実現しています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き生きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域の行事(江見の祭り、海鮮祭り)に参加し、交流する機会ができた。また花水神の納涼祭に招待して皆さんと歓談し、参加した方々の協力も得られた。	地域密着型サービスとしての理念が玄関等目立つところに掲示されています。理念の実現に向けて日々の介護が実践されているかどうかについて、職員会議の月例会で確認されています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地元の行事に参加させて頂くことで、馴染みの人と会って話をしたり神輿をみて楽しんでもらった。	自治会には未加入ですが、会長が運営推進会議に出席する等良好な関係を築いています。散歩時等に近所の人と挨拶を交わしたり、海鮮祭り等の地域行事に参加したり、ホームの「納涼祭」行事に参加を呼びかける等、地域との交流が進んでいます。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	利用者の方との散歩の際、地域の方と声を掛けたり掛けられたりしているが、こちらからの貢献についてはこれからだと思っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議で出た意見等をスタッフ会議に取り上げて検討するようにしている。	自治会長、区長、地域包括支援センター、民生委員、ホーム代表等のメンバーで併設の多機能型施設と合同でこれまで3回開催しています。議題は入居者状況、活動報告、避難訓練等で、意見等をサービス向上に活かすべく取り組んでいます。	外部評価の意義や評価への取り組み状況について説明し、改善課題について率直に話し合っって意見を引き出し、運営やサービスの向上に繋げることが望まれます。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市の開催する集いに参加して得た情報を職員と共有している。また市の担当者の方々との交流のなかでアドバイスを頂いている。	市主催の認知症ケア等の研修会に参加し情報交換しています。また、区分変更申請代行等のため介護保険課や生保者のため社会福祉課など必要に応じて市担当課と接触し、相談に乗ってもらっています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束はしない、ということを原則としている。構造上の問題で危険回避策を行っているが、常に課題と考えている。	外部研修の受講後、共有のため内部で研修報告を実施しています。また、ケア会議でマニュアルに基づいた介護姿勢を徹底しています。玄関の構造上安全のため施錠せざるを得ませんが、外出の気配があるときは職員も同行し支援しています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	新聞の掲載欄や手元に届いた資料を回覧して話し合ったりケア会議の討議内容にして周知している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	制度を理解することやどのように制度を活用したら利用者の支援となるのか、必要性についても学ぶ機会を設ける。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書他、同意書に必ず目を通してもらい、納得して頂いた上に署名、印を交わし、不安や疑問等に対しいつでも受けている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者やご家族からの意見や要望は常に伺うようにし、なるべく実現できるように考えている。	暮らしの中で利用者の苦情や要望等を汲み取るよう努めています。また、家族の面会時や状態変化時に意見等を聞いて、運営に活かすべく取り組んでいます。運営推進会議のメンバーには家族等は参加していません。	今回の評価の際に家族アンケートに寄せられた家族の意向等について先ずホーム内で話し合って改善策を打ち立て、運営やサービスの向上に活かすことが望まれます。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月一回のケア会議やその他にも意見や提案があればできる範囲のなかで実施することになっている。	職員会議や引き続いて行われるケア会議で意見や提案等をオープンに出してもらい、運営やサービスの改善に活かすべく取り組んでいます。また、申し送りノートなどで意見等を取り入れています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	ひとりひとりの職員の個性や仕事に対する意欲を大切に、良い仕事ができるような環境づくりに努め、職員間のモラルの向上を考えている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	スキルアップの為に研修や介護福祉士資格取得の為に研修、受験に取り組んでいる。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域のグループホーム間による人材交流により一日、他の施設で研修をすることでいろいろな気づきがある。その気づきを持ち帰り討議し反省することも含めて活かすことができた。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の気持ちにまず添うことを大切に、安心して自分の意思が言えるような関係の構築をするということを考えて、接している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	大きな不安を少しずつ減らしていくために、どんなに些細なことでもひとつずつ納得して頂き、不安を解消したり、困っていることを遠慮なく話せる雰囲気をつくるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族が今、どんな気持ちなのか、何をしたいのか、どうして欲しいのか等を察するように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	グループホームのスタート時にスタッフ全員で利用者さんと共に生きる～を心において今を過ごしています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	グループホームに入居しても、本人を中心に家族スタッフが身体面、精神面等いろいろなことを共有していこうと努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人の意向により継続が可能であれば、パイプ役になり、良い関係が続けられるようにしている。	近所付き合いをしていた馴染みの友人がホームに訪ねてきて利用者が喜ぶという場面があります。入居前から行きつけのお寿司屋さんや近隣のスーパーに職員と出かける等、継続した支援に努めています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	それぞれの個性や心の動きを把握しながら、強要するでもなく、同じ屋根の下で共に生きて行けたら～と日々思っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去され、他の施設に移られた後の様子に対する相談を受けた際、話に耳を傾け不安なことがあれば少しでも軽減するようにと、努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの心の動きに気づき、思いを理解しようと努めているが、本人の満足度を考えるともう少し掘り下げて考える必要があると思っている。	コミュニケーションが取りにくい利用者に対して、本人の意思を察して声かけをし、表情やしぐさから意向の把握をしています。また精神的に不穏になりやすい利用者には、早目のケアを心がけ不穏にならないような配慮をしています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	長年続けてきたこと、好きなことを理解した上で日々の生活に取り込むように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	生活リハビリ~というテーマをもって一人ひとりの出来ることを、把握し実際出来ているか~どの様にしたら実施できるか、課題としている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	面会時の家族からの意向等とケア会議からでた方向性を融合し、その後のケアに活かしている。介護計画にも繋がるようにと考えている。	計画作成担当者を中心に、利用者や家族の希望を尊重し、医師や看護師の意見を反映して職員と共に介護計画を作成しています。毎月のモニタリングから課題を抽出し、ADLが急に下がった時や骨折した時などに随時の見直しがなされています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人のケース記録は活かされる記録になるように日々の様子をそのままに書き留め、情報をスタッフ、家族で共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	様子が変わる時点で早期に対応するように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域との交流がもう一歩～というところ、資源は豊かな地域なので、活用出来るようにと考えている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	母体が病院である為、連携をはかりながら月に一回の定期受診を施行している。	体調不良の時には提携病院に行き、外来で診察を受けています。歯科医には、必要に応じて虫歯の治療や義歯の作成・調整のため職員が付き添い支援しています。入居前からのかかりつけ医を希望する利用者には、家族付き添いを基本としています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	担当看護師への利用者の容体の報告は常に行っており、日々の少しの変化も状況説明しアドバイスをもらっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	相互にサマリー等を通して情報を共有し、不明な点や注意点は細かく伝え合っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人、家族の意向を大切に思っている。納得しあった上で医療、介護の両面での方向性を確認し、施行している。	契約時に「ホームでの重度化及び終末期ケア対応指針同意書」を家族から貰っています。利用者が終末期を迎えた時には主治医と家族間で「意思確認書」を交わしています。既に看取りを経験し、家族から喜ばれました。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時の場合はこれまで実施してきたが、事故発生時はまだ訓練していない。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練についての昼間の訓練は行ったが夜間の災害を想定しての訓練はしていない。地域の協力は得られる状況だが正式に依頼していない。	自主避難訓練を年1回実施し、チリ地震に伴う津波警報が出たとき、実際に避難しました。防火管理者は選任されており、スプリンクラーを含む防火設備は完備していますが、地域との協力関係はまだ築かれていません。	消防署立会の防火訓練(夜間想定を含む)を年1回加えると共に、地域との協力を得るため運営推進会議で予め防火訓練を議題に取り上げ協議して協力関係を築くことを勧めます。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	開放的な空間のなかで思いのほか、プライバシーや言葉掛けがおざなりになっている時がある。	個室は利用者にとってプライバシーを守って欲しい場所なので、衣替えや居室の大掃除の時には、相性の良い職員が対応をしています。また、排泄や入浴時にはドアを閉め、羞恥心に配慮をしています。	利用者と職員の信頼関係が築かれています。しかし、慣れからくる言葉かけに対して更なる配慮が必要と思われる。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	強要することは控え、本人の意思を大切にしている。利用者との会話を多くし本人の意思や気持ちが出しやすいように、と努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その時の天候や利用者の体調により、決まり事でも柔軟に変更し施行している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	以前から着なれた衣服や着方等を大切にしながらも、季節によりスタッフがなげなくアドバイスをしている時もある。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	キッチンに入ってくる利用者は限られているがお茶入れ、配膳、片付けを自然にしている。	入居時には家庭から馴染みの茶碗、おわん、お箸、湯のみやマグカップを持参して貰っています。食事の準備は、きぬさやのすじ取りなど出来る範囲で行い、下膳は率先して利用者が運んでいました。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分は意識しておやつ、食事、希望時にと摂取してもらっている。献立は交代で作成するが季節感をだす為に旬の食材を使うようにしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアは夕食後は見守り、一部介助、全介助とそれぞれに施行している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表をきちんとつけ、様子をみながら本人の意思確認をし、行っている。	排泄チェック表から排泄パターンを把握し、利用者がオムツから紙パンツに改善した例があり、自信にも繋がる取り組みです。夜間も必要な利用者には声かけをし、自立に向けた気遣いがされています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	特に排便については全員で意識をもって関わっている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	個室であり、ゆっくりと気持ちよく入浴してもらいたいと思い、施行している。	原則として少なくとも週2回は入浴ができるように支援しています。バイタルに問題が生じた場合は、清拭に切り替えたり、翌日に延ばしています。また、風邪を引いたり、足に浮腫のある利用者には足浴をする等、個別対応しています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	安心して入眠して貰う為の環境作り、接し方に努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	日常的に服薬している内服薬も定期受診の際医師に確認している。新しく処方されたものについても様子観察している。問題あれば看護師に連絡し指示をうける。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日々の会話から利用者本人の意思や気持ちを受け止め、実現できるように考えているが、十分に出来ていない。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけるように支援している	個別ケアを大切にとっているが、散歩等に出かける利用者が限られている。これまでひとりだけ人の協力を得て外出が実現したが、皆さんができれば良いと考えている。	気候の良い時期には週に1～2回、散歩に出かけています。少し遠出の外出に心がけ、オーシャンパーク、太海のフラワーセンター、海鮮祭り、江見のお祭り、お寺に紅葉狩りに出かけ、利用者には喜ばれています。	短い時間でも散歩に出かける頻度を増やし、忙しい時は外気浴だけでも行い、利用者の健康維持や気分転換に繋がる取り組みを検討することが望まれます。



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族の意向もあるので、相談と理解を得た上でやっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人からの希望があれば、いつでも電話を使用出来ることを伝え、やっている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビング兼食堂は景色が良く、彩光に恵まれているので、日中は皆さんで歌を歌ったりしてすごしているが、家庭的な雰囲気に欠けているので工夫が必要だと考えている。	太平洋に面した丘陵地に立地し、1日の大半を過ごす居間から空と海の絶景を一望できます。日めくり曆、行事写真や鯉のぼり作品等が掛けてあります。居間の一角に廊下へ通じる歩行リハビリ等の多目的畳台が置かれています。玄関等の他の共用部分も明るく、掃除が行き届き清潔です。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングの隅に畳ベッドがあり、いつも一緒に座って会話をしている光景がみられるが、他に工夫が足りないと思う。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人が慣れ親しんだ物や望まれるものがあれば持参して頂いたり、家族の訪問時に一緒に考えてもらっている。	居室には馴染みの目覚まし、整理ダンスや、お気に入りの縫いぐるみ等の装飾品が持ち込まれています。壁には雛人形の折り紙作品、面会時の知人との写真等が飾られていて、快適に安らぎの中で過ごせるよう配慮しています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	構造面では解りやすいが、居心地の良さや温かみのある空間となると、工夫が必要だと思う。		